

毎日新聞社主催 私学公開座談会 第25回

<多様・未知> とつながるチカラを育てる私学の教育が開催されました

10月8日(日) 日本大学経済学部にて、第25回 毎日新聞社主催・日能研協賛「私学公開座談会」が開催されました。このイベントは、「私学にこそある価値は何か」を根幹に置き、毎年その時どきに適したテーマで開催しています。今年度は「<多様・未知> とつながるチカラを育てる私学の教育」がテーマです。

通算25回目の開催となった今回、ご登壇の学校・先生は、

灘中学校・高等学校 校長 和田孫博先生、雙葉中学校・高等学校 校長 和田紀代子先生 でした。

第1部は講演会形式で、各校の教育理念について、それぞれの先生方が「多様・未知なる未来を生き抜くチカラをどのように育てているか」ということについて熱く語られました。また、第2部ではパネルディスカッション形式で「これからますます多様な人々が協働する世の中で、各校の教育方針は変化していくのか?」「個性の豊かな生徒をどのように伸ばしていくのか?」「私学らしさとは?」「大学入試改革の影響は?」…など、さまざまな切り口から話題が展開され、難関校と言われる両校がその高い学力をどのように確立しているのかという核心に迫っていきました。

関西の男子校、都心のキリスト教系女子校という、まったく背景の異なる両校でありながら、お話の中で共通していたのは、「受験のための学びに偏るのではなく、『全人教育』を大切にしている」ということ。お話の中で“中等教育の教養”という言葉が何度も強調され、教科教育や様々な学校行事を通して人間としての高い教養の育成を主眼に置いている両校の共通した教育方針が浮き彫りになりました。そのために、生徒はもちろんのこと先生方同士の間でも、お互いの個性を認め個性を伸ばしあうこと、お互いが学びあい成長する自由な環境があるというお話が印象的でした。

保護者からは、「両校の高い学力は、詰め込みや強制で作られているのではなく、生徒自らの主体的な学びとお互いを認め合い、そして高めあう仲間がいるという環境から生まれていることがよくわかりました。」「世の中の大きな変化の中で、わが子の進路がどうなっていくのだろうかという不安がありましたが、今日のお話を聞いて安心して私学にお預けすることができそうです。」などの声が挙がりました。

当日の座談会記事は、10月下旬に毎日新聞本誌、毎日小学生新聞にも掲載される予定です。

ぜひ次月実施の、第26回公開座談会にもご参加ください。

第26回 公開座談会 日時：11月5日(日) 14:00~16:15

対象 小学1~6年生の保護者

主催 毎日新聞社

協賛 日能研

後援 日本私立中学高等学校連合会

桜美林大学総合研究機構「教育未来研究プロジェクト」

会場: 上智大学 四谷キャンパス6号館



MAP

JR 中央線・東京メトロ

丸ノ内線・南北線

「四ツ谷駅」麹町口・

赤坂口から徒歩5分

【参加校ご登壇の先生】

- 慶應義塾中等部 部長 山崎 俊一 先生
英語科 佐藤 恵子 先生
- 早稲田中学校・高等学校 校長 瀧澤 武信 先生
副校長 金子 一郎 先生

<本件に関するお問合せ先>

日能研本部 TEL : 045-473-2311 / FAX : 045-475-0544 / e-mail : pr@nichinoken.co.jp

